

鳳城樓叢書

朱陽齋來同錄

天保十二年
同十二年

田澤齋

特別
3578
10

當丑復渡來之唐商共於唐國
及兼風說書

上

英夷入寇去定就廣風聞情形畧節臚列如左
前廣東粵海等處禁售阿片英夷騷擾浙江寧波
府定海縣界為英夷所據布圖阿片交易又毗連
之乍浦上海洋面亦有夷船竄入即經官兵拿獲二
十餘人內有女夷自稱三公主者一併下獄在案今春
商等欣悉定海縣界已於二月交還夷船盡行開去
乍浦上海洋面肅清此商等來販

貴國毫無阻礙竊思夷船去定就廣因定海欽差伊里布

會同廣東欽差琦善未及

降旨先將所獲多人全行釋放英夷即還定海而去不料該夷陽作退兵之舉陰圖糾合之謀英夷之志專在廣東滋擾粵省城外有虎門海口矗立兩山炮臺分設為防禦謹嚴之地二月間又被英夷占據幸有欽差楊將軍芳祁制軍頃怡撫軍良各大臣督率員弁奮勇禦敵兩處互有勝負而夷勢頗甚晝夜

環攻居民遷徙以後貿易漸通人心稍定詎於三月內賊氛又起虎門去省城不過六十里烽火連天豈能駐足迨又紛紛撤至韶關四月初旬及望後屢次打仗驟難滅寇縱使天兵連捷盡掃欖櫓恐未能計日以待若欲照常安堵買賣流通諒非一二幫不可惟江浙兩省乍浦上海等處海口樂業安居均皆寧謐商等亦航海無虞矣刻下琦善伊里布兩大員議和入奏先將獲犯釋回

皇上震怒褫革其官抄沒其家傳示各大員如有妄
議講和者懲辦不貸朕將親統六師勦除英寇
經

御弟綿親王請領軍兵前往廣東征勦次紆

宸厪又已革欽差林則徐欽授四品京堂發往

浙省寧波等處防堵故乍浦等各海口俱各
安靜此商等在唐揚帆之前傳聞所及即此具
單上

報

天保十二年六月

丑二番船主沈耘穀

全三番船主顧子英
王雲帆

尚丑其渡来唐高宗唐國
及策其統書和解

イキリノ條當時定海縣門拂廣東表石成歲
弟乃小孫振たやふ

先般廣東表阿行高貴は松ふ月イキリノ表成
驛洲江寧波ノ内定海縣は集取歳今ノ阿行高貴
以てんしとて浦上海道迄驛ふ月早進官軍の高
有し松石有る人々浦上高貴ノイキリノ國事
と云ふとて同入軍と成りて春初陽春と云ふ
高寧波縣南方の海イキリノ水が城門拂の故に
浦上海道と寧波と松石

貴國は松波の故に松石廣東表石成歳

ノ入弘定海門押廣東志云嘉靖九年定海縣之屬
城在縣東南市在廣東志云城在縣東南市在
今之寧波

御下示を廣見清主捕買取人可儀等近下為行押小廣
イキリス人長退兵ノ要を見せ晴糾合ノ謀成
廣東長夜驛ノ向以城ノ海面ノ虎門海に
あふりノ城ノ石火夫屋を以て防禦ノ要地と爲
以てイキリス人ノ集會ノ所と爲す此張云城在揚方
祁墳恒良ノ人ノ將士年を以て守之張の防
御云云一双方主ノ防敗有ノ城イキリス方防

定海城立ノ日古氏に近き其後近き高貴筋に開人解
徳相成ノ處又少室二月以強動再復以キ一石席下
即ち廣東城ノノ九七指里經其間戰年也其後
其來多ノ額圖ノ此ノ近接四月初旬イキリス人
廣東人等ノ責亡ノ儀廣見清主捕買取人可儀等
利方ノ人平ノ通無高貴筋に近き二季ノ内
出來ノ浦里海門に近き浦上海に近き諸廣
ノ近接靜隱ノ人通高ノ往迎ノ事御我々會
少時靜隱ノ人里布ノ人一生捕ノ者近き諸
儀 卷年 儀

皇帝御怒多官儀之とて致家内にも國新と
 人臣は清少内と若和隆と成取用の者ありとありと
 度能くは睦月より二年戊申年よりイキリ人仙代
 さらんとの清事なり

皇太子親王軍兵との具

家通を要人との廣事表に成り又足達と云
 秋の林別條儀と云ふ官儀を授け江寧波都
 防禦に任じられ紙の依る浦東諸侯に平安あり
 世帯に唐國と云ふ御東及の月以降に書けり

丑六月

丑武部卿
 沈毅毅

同書卿
 鶴子美
 王雲帆

頼川
 源之部

頼川
 高之部

入津阿蘭陀兩船風說書一
并彙組人數書附一都合二



風
說
書



一當年未朝之阿萊陀船二艘六月十廿咬啗
吧一同出帆仕海上無別糸今日內當地著岬
仕以右二艘之外類船無法座以

一當年正月五日由當地開航
廿二日在四日
海上無別余咬喘吧著船住

一去年中上り通口シヤ船ヲ艘地圖ニ改正仕ル為ニ
東海邊ニ向仕仕ル由ニ所底ニ變其未メ何處ニ至リ

一去年中上ハイスハニヤ國一揆ニ俄ニ靜謐相成リ
一歐羅巴諸州靜謐ニ座得共ロシア國とトルコ
國との戦争有ク右と去年中上ハトルコ國とギリ
シア國との戦争キリシヤ國手弱相成ハ有ク是國
ヨリ援兵と指而烈友相戦ハ故當時ニ有クロシア
國とトルコ國との戦争ニ援兵諸州流布仕在
勝敗ニ義ニ未相分不リ

一去年中上ハ通凡哇國一揆有既咬喘此奉行職

之者出張仕得共凡哇國之酋長テイホゴロ
とト者惡公博長仕相鎮不リハ故攻取マ
處余多ク人命と断ハ義相厭ジ多勢ヲ
救日取固ハ交同類之との共退ニ降来
ハ有ル及平和ヲ有ル有

右ノ外相智ハ風説無正座

ロヒタン

ケルテイニ（一）リツキス

ノイラント

有之趣今日入津之西船船頭阿蘭人中口
加印之人取中上品通和解仕指上中品上

丑七月廿日

石橋助元清門
茂傳之進
石橋助十郎
橋林榮元清門
西吉方夫

覚

六月十日廿七日九月九日近三十一日入津
一阿蘭陀壹番船咬喘吧出之

人數三拾七人

右同新

一同二番船右同新

人數五拾五人

丑七月

唐永初濟多書一

此長定之唐水水清
多類之

一八歌子

そね

名も通也其水水清唐水水清

也七月

口交也

當年未解阿婆託
臥嫂積淚荷物
至今帳

西船積行物名目

一 得之銀

二拾四反

一 黑大羅紗

二拾六反

一 萌英同

二拾五反

一 花英同

二拾二反

一 淺英同

拾四反

一 莫大羅鈔

貳拾貳反

一 白同

拾貳反

一 緋少た

貳拾貳反

一 惠同

貳拾貳反

一 萌英同

貳拾貳反

一 替金龜同

二反

一 胤父同

四反

一 英同

八反

一 新降同

四反

一 淺英同

拾貳反

一 白同

六反

一 緋小羅鈔

拾貳反

一 惠小羅鈔

貳拾反

一 崩英同

拾貳反

一 在矣同

拾叁反

一 紉之乃者兒

拾八反

一 思同

或拾四反

一 花矣同

拾五反

一 崩英同

拾叁反

一 濃花矣同

六反

一 亂矣同

六反

一 淺英同

拾貳反

一 惠郭矣同

六反

一 荒同

拾貳反

一 西面羅鈔

拾反

一 文修之テシイフ
修之名致天鵬誠成

六反

一 文修之口二个儿又修之
修之名八心王人成

五拾或反

一 本國四鈔

七千九百三拾六反

一 中度四鈔

千貳百七拾或反

一 浦家四鈔

五百反

一 奧嶋

貳千七百九拾或反

一 象牙

千九百五拾反

一 阿仙藥

但拾六反

貳千五拾反

一 丁子

三万二千八百反

一 胡椒

貳千四百反

一 錫

三万七千四百拾反

一 銀

八千三百拾斤

一 紋

二拾九

一 牛皮

六百八拾八枚

一 蘇木

七方九千斤

一 白砂糖

七拾六千斤

一 銀錢

數七千

但デカト

別帳商法

一 阿仙藥

但拾六斤

千五千斤

一 母丁子

四百貳拾斤

一 水銀

但拾五斤

九百斤

一 テレフ

拾反

一 玄面羅紗

五反

一 藥木

四万斤

列後持渡り

一 藥木

三万斤

一 白砂糖

貳万斤

所用所他

一 尺長白金巾

五拾反

一 白金巾

百反

一 航海家之曆

三冊

一 銘鑑

三冊

一 咬咽吧曆

三冊

一 廿フ之

五ホ一ト

一 伽羅

四切

一海葵

百反

一真鳳

或百反

添獻上心商テ

一銀盆

三反

一金小箱

三反

一人參

三反

一天地球

三反

西所凡添獻上心商テ

一銀盆

三反

一金小箱

三反

一人參

三反

水野出羽縣水戸池

一 茶種

指三品

林肥後与縁河地

一 茶種

拾貳品

本多佐渡与縁河地

一 硝子鉢

六枚

一 茶室

五枚

一 茶室

五枚

一 金罍押付紋時斗

貳斗

一 白八瓶

六ツ

一 ケームルハール

貳切

一 ピケイ

拾五斗

一 鼻目鏡

二ツ

一 テリヤアカ

四ホ。ント

一 帯メ

四ッ

一 ウニコール

拾ホ。ント

一 毛襪

三枚

一 重巾斗

三ッ

一 卓子道具

三揃

市地心商テ

一 ナルコル附繪鏡

三枚

大草能也しち縁市地

一 硝子障

拾四枚

一 同障付甚魚物

八揃

一 銘酒瓶

拾貳

一 虎の爪

五拾

一 銀酒壺

七

一 ウニコール

八

一 門提

七

一 時斗鎖り

二

一 白瓶

六

一 ケームルハール

五

一 サフラン

七

一 鼻目鏡

二

一 玉入ホタテ

六

一 晴雨昇降

七

一 寒暖昇降

七

一 紅毛油や皮 二 投

一 黄毛油や皮 三 投

一 金押おし時斗 武ッ

一 銀おし時斗 武ッ

一 テリヤアカ 四ホント

一 金並縁り 二五ル

一 銀同 二五ル

一 直夜遠目鏡 五ホ

一 根付目鏡 武ッ

一 繪鏡 四投

一 鍍目 五ッ

作持編
市岡公商

一 時斗仕藏繪讀

三 夜

高木氏名 椽印 港

一 時斗仕藏繪讀

四 振

一 硝子紙

四 投

一 サフラン

五 木ノト

一 硝酒意

五 木ノ

一 茶器

五 振

一 阿片

五 木ノト

一 ウニコール

五 木ノト

一 ノリノス

五 切

一 虫時斗

五 木ノ

高木氏名 椽印 港

一 鉢付蓋物

六 揃

一 瓶酒瓶

拾 二

一 銘酒器

三 少

一 サフラン

五 束二ト

一 虎二つ奴

五 拾

一 鞭

五 本

一 短筒

五 揃

一 銀被時斗

五 少

一 ウニコール

五 束二ト

高橋四郎之儀

一 金入本國織

六 旦儿余

一 サフラン

五 束二ト

一 毛氈

毛投

一 銘酒罇

毛ワ

一 茶忌

毛拵

一 ノリノス

毛切

一 ウニコール

拾貳木ノト糸

一 紋天鵝絨

六丑ル

茶所奇久在廣門沙地

一 鐸付了物

拾貳拵

一 サフラン

毛木ノト

一 ケーメルハール

毛切

一 紅毛絨や皮

毛投

一 萌黄目

毛投

一ウニョール

五ホント

一阿斤

五ホント

一亞時斗

五ウ

福田安太郎

一鉄付蓋物

六揃

一門提

五ウ

一椀付遠目鏡

五ウ

一重夜目

五ホ

一サフラン

五ホント

一テリヤアカ

五ホント

一ウニョール

四ホント余

一亞時斗

五ウ

一 茶瓶

二拾

一 茶種

五品

久松森清沙地

一 鉢付蓋物

拾揃

一 廿フウ

五品

一 花より

五拾五

一 銀酒瓶

拾四

一 ウニコール

四品

一 遠目鏡

五品

一 秘酒蓋

五品

後夜市之懸沙地

一 鉢付蓋物

四揃

一サフラン

をホント

一紅毛魚や皮

指投

一萌英田

虫投

一英田

虫投

一門提

をッ

一白銅コーヒイカン

をッ

一田茶毛

をッ

一乳汁入

をッ

一メリノス

を切

一ウニョール

四ホント

久松碩次郎沙汰

一サフラン

をホント

一 鋌酒器

七五

一 石筆

武抱

一 ウニコール

四ホント

一 鉢付蓋物

武揃

一 盃時斗

七五

福田源四郎清次

一 遠目鏡

七五

一 毫末川ぬ

武揃

一 サフラン

七五

一 袂時斗

七五

一 ウニコール

五ホント

一 金入本國織

七五

一 木コ并ハカ
但し食事道具

七 揃

一 食事手拭

八 揃

一 卓子五張

九 揃

一 焼物類

高木清光 湯瓶

一 サフラン

十 揃

一 引提

十一 揃

一 遠目鏡

十二 揃

一 並内斗

十三 揃

一 押打被内斗

十四 揃

一 焼物類

高嶋八重子 湯瓶

一サフラン

サフラン

一火焼

火焼

一焼物

六ツ

一武挺

武挺

一武挺

武挺

一焼物

武挺

一武挺

武挺

一如

二ツ

一武挺

武挺

一武挺

武挺

一銀酒

武挺

部屋〜膳所まで

一 椰子油

五千ホント

一 白檀

六千ホント

一 タマリシデ

二千ホント

一 左腹皮

五千八百ホント

一 飯

指五千ホント

一 重唐皮

五箱

一 サボン

五千五百ホント

一 サフラン

拾五ホント

一 オクリカンキリ

拾五ホント

一 キナノ

二百ホント

一 細末同

貳拾貳拾五

一 瘰切

式百ホント

一 硝子板

式百枚

一 焼物并硝子窓

指式箱

右銀箔物之儀を年々新屋々々相言ひ共
當年々相立次第に依之新屋々々所
一口相成儀に由出也

一 式書紙長サ

百廿フート

但しこれをフート日本
直に式ア

一 月石火矢教

六挺

一 月小筒

式箱

但し此上悦と云ふ
有之外に注炮筒は
六七本を箱に
有之

一 式書紙長サ

百五拾フート

一 月 船石火矢教

松武撰

一 同 小崗

去箱

但し海松は法合あり右を同
清和は公悦と記有るは

右外 兩 船石火矢教を清和

一 食用鳥獸之類

鶺鴒 凡 松
ハルケニ 凡 松
鶺鴒 凡 松

右兩 船石火矢教を清和

一 船石火矢教

生國
アントウルペン 三十九

一 筆者所蒙院人
カシキを記し海松とて記す

スレシカラーフエニハゲニ九

一 口人妻
みみ

テルフト 十九

一 筆者所蒙院人
カシキを記し海松とて記す

ボーテカラーフエ 二十

一 上按針没
勢

ミッテルブリュグ 二十

一 下按針没
セ

テセル 二十九

いし松針皮

一 いし松針皮

生四 アントウルベシ

第

二十一

いし貝殻

一 いし貝殻

い

二十二

いし外科

一 いし外科

アムストルグム

二十七

いし大工

一 いし大工

い

三十二

いし下大工

一 いし下大工

トルデレグト

二十二

いし水夫

一 いし水夫

ミッドルフルグ

二十五

いし格

一 いし格

オクスステグ

四十五

いし水夫

一 いし水夫

ミッドルフルグ

二十八

いし

一 いし

アムストルグム

四十六

いし

一 いし

い

三十三

いし

一 いし

ロトルグム

三十七

いし

一 いし

オクスステグ

三十

一 変
あんなにきんぎょ

生圓
レイテン

第
三十八

一 日
あむそんちうて

テハガ

四十ハ

一 日
あんなみちるん

ロトル名

三十九

一 日
うゑぬちんごる

ニキードム

二十三

一 日
いさむあ

フラーテリゲシ

三十三

一 日
いあゑるあ

テルフト

四十三

一 日
あむあけぬ

トルデグー

五十二

一 日
いぬあけぬ

エニキホイセン

四十三

一 日
ちうあむあけぬ

ゴローニゲシ

二十五

一 日
あんなにきんぎょ

ボンメル

二十五

一 日
いさあけぬ

ムールデイキ

三十三

一 日
うゑらん

テートル

二十五

一 変
ちん急心あん

生國
アイトウエペン

二十
三

一 日
い。庭まあ次

日

二十一

一 日
ぬ急たむ免

ケニド

十七

一 日
ぬむるあまき記

オ、ステニテ

十六

一 日
い。う。め。月。庭。急。ん

日

十四

一 黒方
ぬまきぬ

ハタイファイヤー

二十五

一 日
き。日。ん

同

二十

三 接七人内

三 接四人 阿蒙院人
き人女
或人 黒坊

右きき丑阿蒙院きき番 新系組人別法改
を諸品相遠きき沙汰は市川園地きき者精入
き相改きき不再及きき若き人成きき沙汰は以上

丑七月

新河堂院人

一 たぬる或アモ

生國
アムステルダム

第

五十六

兼者河堂院人

一 ある屋のやうなる

は

三十

上梅針収

一 屋のまん好海の家

デヘルデル

三十八

下梅針収

一 ある屋のやうなる

アムステルダム

三十四

は

一 たぬるきアモ

は

十八

一 ある屋のやうなる

エニキホイセ

二十二

新外科

一 ある屋のやうなる

ロトルダム

二十

小ま

一 屋のまん好海の家

アムステルダム

三十

旧格

一 ある屋のやうなる

は

三十

大工

一 ある屋のやうなる

は

四十

は

一 ある屋のやうなる

ハドルウイキ

二十七

水

一 ある屋のやうなる

は

四十三

一 生 厚海 ^{生國} 五十三

一 何 厚 ^日 二十一

一 加 何 ^{公へルグ} 二十八

一 有 厚 ^日 三十九

一 何 厚 ^{アムスルタム} 二十四

一 何 厚 ^日 二十

一 何 厚 ^{ボシ} 二十七

一 何 厚 ^{エムグデシ} 二十

一 何 厚 ^{エシキホイセシ} 二十四

一 何 厚 ^{ホシビルウ} 二十四

一 何 厚 ^{ゴデシヒルウ} 二十八

水
ある魚をゆひてんさる
はぬ
エムブデン
二十四

小い魚を煮る
アムステルダム
四十六

みい魚を煮る
ウィンドルコロン
二十四

魚を煮る
エムブデン
二十七

魚を煮る
日
二十六

魚を煮る
アムステルダム
二十五

魚を煮る
日
二十五

魚を煮る
日
二十

魚を煮る
エムブデン
二十

魚を煮る
アムステルダム
二十五

魚を煮る
コロネインゲン
二十二

魚を煮る
オルデビタグ
二十三

水丈

一 ちんあまのいほあ

生國
ハムブルグ

二十六

一 ちんあまのいほあ

テトフル

二十二

一 ちんあまのいほあ

アムステルダム

十六

一 ちんあまのいほあ

17

十九

一 ちんあまのいほあ

17

十九

一 ちんあまのいほあ

てりや

17

二十一

一 ちんあまのいほあ

17

二十五

一 ちんあまのいほあ

とあちん

ボン

十九

一 ちんあまのいほあ

アムステルダム

二十一

一 ちんあまのいほあ

かあろ

17

十九

一 ちんあまのいほあ

17

十八

一 ちんあまのいほあ

17

十七

唐人記

生園

アムステルダム

墨

十四

元、上、高、土、市、川、婦、留

17

十五

市海秘里多也人

כד

十五

心とろまふ

17

十五

そんちやうな急を

17

十八

あまの志高婦名

一黑坊
一五

バ
タ
、
ヒ
ヤ
、

卒

一 好
好
好

17

二十

五拾五人内

五指三人阿茶陀人

斗人
黑坊

右者當丑阿蒙院武番私烹鉏人別涉政之權
取相遺無涉生於左河國林示之者精之入
急相改以一取一再度之者為人茂無涉此以

丑
七
月

右之析、相調子申上以上

五
九
月

名村貞四郎

乙卯十二月己丑十一日

何蘭松後

鳥獸書付

一 人形 野郎

其相

但臥るゝを以

一 小形 同

同

但著るを

二 頭黒 紅音

同

美鳥

一 大 紅音

同

一 小形 紅音

同

一 大鼻音 音呼

三 羽

古鳥

一 符人 音呼

三 羽

一 屋長 音呼

三 羽

但内 音呼

一 屋長 音呼

三 羽

但内 音呼

横 音呼

一 長尾音 音呼

三 羽

以



